

日本版 CCRC 事業を模索する

(特非) シビル NPO 連携プラットフォーム

代表理事 山本 卓朗



明けましておめでとうございます。

あっという間の 1 年でしたが、高齢化がますます進み、気候変動も大きく課題がどんどん増えているように感じます。

CNCP 活動も設立から 3 年経ちましたので、全体の見直しを行うべく、見直しワーキングを立ち上げ、現在精力的に議論を進めているところです。大きな課題である財政基盤につきましては、目下のところ、そのほとんどが賛助会員の皆様からの会費でまかなわれていますが、設立時から社会的ビジネスの事業化による自立を目指しているところです。とは言っても営利企業の体制ではないので、おのずから限界がありますが、少しずつ可能性を求めて事業ごとの研究会に会員や企業の参加を願って進めているところです。

その一つに、日本版 CCRC 事業「生涯活躍のまちづくり」があります。

CCRC とは Continuing Care Retirement Community の略ですが、政府のまち・ひと・しごと創生本部のウェブなどで詳しく載っているので省略するとして、CNCP がめざす CCRC は

「社会の第一線を退いた高齢者が若い世代とともに暮らし、地域社会と交流しつつ、孤立することなく、適切な健康管理をしながら健康寿命を延ばし、仕事や余暇を楽しみながら生活できる地域社会」です。

現在モデル地域として南房総に絞って、地域の状況の把握等を行っていますが、例えば空き家比率は、勝浦市 36.8、いすみ市 28.6、鴨川市 26.3 などと高率であり、また高齢者比率は、御宿町 40.6、南房総市 37.5 などとなっています。南房総にある大規模団地でもかなりの高齢化が進んでいるものと思われます。私が住む大網白里市の季美の森住宅地はゴルフ場と一体開発した 1500 戸の住宅地として、かなり知られていますが、開発から 30 年もたっていないのに、高齢化が進みさまざまな課題を抱えています。現在「ミライズキミノモリ」という将来を見据えて積極的に活動を行っている若手中心のチームが、デベロッパーや大学、自動車メーカー、病院などを加えて、住民への参加を呼び掛けています。いずれは季美の森型の CCRC といえるようなモデルに育っていくことを期待しているところです。

理想的な CCRC の新設を構想しますと、住宅地の開発はじめしっかりとしたサービスの共用棟や健康施設の設置が必要であり、かなりの規模になりますから、地域の人口減少や経済動向からみてそう簡単ではないではないと思います。一方、既存の高齢化した開発住宅地を CCRC 化することを考えると、空き家や周辺の公共施設との一体活用を含め、知恵を出すことで小規模な投資で実現できるのかと考えます。まちづくりにたけた NPO の社会活動と地域の自治会組織によるマネジメントは、さほど難しくないのです、個別の事業を行う企業の参画があれば実現の可能性が見えてきます。

今年も積極的に活動していきますのでご協力よろしくお願いします。

